成人未婚者への防災啓発の一アプローチ　防災de婚活の事例報告

A Report on Marriage Meeting on “BOSAI” (Disaster Reduction): An Approach to Unmarried Persons for Getting Their Interests with Disaster Reduction

○秦 康範[1]，多賀 純夫[2]，五味 愛美[2]，増田 由香子[2]，渡辺 千明[3]
Yasunori HADA[1] ,Sumio TAGA, Aimi GOMI, Yukako MASUDA[2], and Chiaki WATANABE[3]

[1] 山梨大学 地域防災・マネジメント研究センター
Disaster and Environmental Sustainable Research Centere, University of Yamanashi
[2] 八ヶ岳婚活推進委員会
Yatsugatake Moutains Committee on Marriage Meeting
[3] 秋田県立大学木材加工研究所
Institute of Wood Technology, Akita Prefectural University

This paper reports on a case of marriage meeting on “BOSAI” (disaster reduction). An approach to 30s and 40s unmarried persons for enlitenment activities has been one of big problems in disaster reduction field. For solving this, we focus marriage meeting on an effective tool connecting between those persons and disaster reduction. First event of marriage meeting on “BOSAI” was suspended by not satisfied the number of minimum participants unfortunately. Second event of marriage meeting on “BOSAI” was carried out with 7 participants (3 mem and 4 women) and the result of meeting is reported. At last, future isuues and works are mentioned.

Keywords *: Disaster reduction, marriage hunting, unmarried person, cross road, enlitenment activitty*

１．はじめに

(1) 防災啓発と成人未婚者へのアプローチ

防災に関する啓発活動を展開すると必ず遭遇するのは，参加する人達の偏りであろう．啓発が必要な無関心層は，そもそも参加しないし，参加する人達は関心が高く，啓発が不要であることも少なくない．梅本 [1)]は，「なぜ「防災ブーム」はやってこないのか？」という特集記事の趣旨として，環境やエコを巡る世の中の動きはブームの域を脱し，文化として定着しつつあるように思われるにもかかわらず，「なぜ「防災」にはそうした盛り上がりが見られないのか」と述べている．片田 [2)]は，釜石市での防災講演会の取り組みにおいて，「参加するのは毎回同じ人，地域に広げていくのは本当に難しい」と指摘している．頻度はともかく防災啓発に取り組む機会がある防災研究者や専門家の多くは，同様の経験や認識をもっているのではないだろうか．

こうした防災啓発に関するある種の構造的で閉塞的なな状況も，2011 年東日本大震災を受けて，劇的に変わって来た．多種多様な主体が防災啓発に関わるようになっているし，新聞やニュース報道においても，災害や防災に関する記事を見ない日がほとんど無い．さらに，選挙における争点の１つとして，「防災」は定番になりつつある．こうした状況は，それだけわが国で災害が多発していることの証左でもあるわけだが，わずか数年前まで「ブームがやってこない」と言っていたのが，今は確実に「防災ブーム」が来ているのではないだろうか．

さて，こうした東日本大震災以後の「防災ブーム」の影響で，筆頭著者は行政の様々な部署が企画する講演会にはじまり，小中学校，企業の勉強会や地域の自主防災会など，様々な主体から講演依頼が来る状況にある．

こうした様々な防災啓発の取り組みが行われている状況においても，なお対象になかなかならない層が存在する．その１つに，30 代～40 代の成人未婚者が挙げられるだろう．一般的に町内会等の自治会活動も希薄であり，学校やＰＴＡ等を介したアプローチも困難である．また，行政の各種啓発を実施している生涯学習，社会教育，男女共同参画等の主要なユーザーにもなっていない．このように，防災啓発における成人未婚者へのアプローチは，解決すべき課題の１つと言えるだろう．

(2) なぜ，婚活なのか

婚活は，社会学者山田 [3)]が考案し提唱した造語である．婚活イベントは大きく３つに分類できる．１つ目は，カップリングを目的としたものである．少子化対策の一環として，市町村が主体となって実施されるまちおこしのための婚活がこれに該当する．２つ目は，飲食店が主体となって実施されるもので，飲食店の売上向上を目的としている．３つ目は，地域の観光資源をテーマにした婚活である．婚活を地域活性化の手段として捉え，地元の人達だけで無く，地域外からの参加が少なくないことが特徴である．本稿の共著者ある八ヶ岳婚活推進委員会は，この３つ目の取り組みに該当し，その活動趣旨に筆頭著者と第 4 著者が共感したことから，本稿で紹介する婚活 de 防災が実現することとなった．

(3) 先行事例

防災をテーマとした婚活イベントの先行事例としては，松江はぴこ会が主催した「夏婚！一緒に助け合うことで生まれるご縁　Help each othere!! Summer marriage meeting」がある． 2014 年 7 月 20 日（日）に実施され，申込み総数 90 名，当日参加者 60 名（男性 32，女性 28）

であった．会は，一部　日本赤十字社による応急法，救出，搬送を学ぶ，二部　Dr.によるファミリーコンサート，三部　交流会，の３部構成であった．筆者が同会副会長松浦洋子氏に尋ねたところ，参加者にとって大変好評なイベントであったことがわかった．60 人という参加人数の規模や，このイベントでカップルが 12 組成立し，現在でも 3 組が交際を継続している（2015 年 4 月 23 日時点）というカップリング率の高さがそのことを物語っている．

一方，この先行事例は新聞報道により，開催が危ぶまれるほど大きな波紋を呼んだ．「災害講習で婚活は不謹慎？　識者の話」との報道 [4]がなされ，島根県立大学井上厚史教授（倫理学）「*島根にとって少子化対策、防災意識の啓発活動は緊急かつ重要な課題だ。しかし、ここが福島だったら、こうしたイベントを企画できるだろうか。違和感がないとすれば、島根における防災意識や危機意識の低さを物語っている。企画の練り直しを要望する。*」や，地元 60 代の女性「*災害を男女が出会う材料に持ち出すのは不謹慎*」等のイベント企画に対する否定的な見解が掲載された．

「防災」という社会的に関心の高いテーマを扱った婚活イベントに対して，こうした批判的なコメントは全く的外れであると言わざるを得ないが，一部の人達を中心に，災害や防災に対するある種の強い固定観念があることは，今後同様のイベントを実施する上で，配慮する必要があるだろう．

２．防災de婚活

筆者らが実施した婚活イベントの内容と実施結果を報告する．防災 de 婚活を企画するに当たって，紆余曲折があった．「防災」を前面に出すべきかどうかや，「防災」をテーマとしながらも参加者が楽しいと思える内容はどういったものかということに，多くの時間を割いた．議論の結果，「防災」を前面に出したイベント名称ならびに内容で実施することとなった．

(1)　1 度目の防災 de 婚活

八ヶ岳婚活推進委員会が主催した初めての防災 de 婚活は，苦いデビューとなった．「BOUSAI de 婚活～身近な人を守りたい・身近な人を助けたい～」（2014 年 11 月 29 日（土）開催）というテーマで募集した．その結果，最小催行人数である男女 3 名ずつの 6 名に達しなかったため，無念の企画中止となった．

関係者で反省会を行ったが，案内を出して開催するまで 1 ヶ月半弱しかなかったことや，具体的なイベントの内容が伝わらなかったのではという意見がでた．

表１　BOUSAI de 婚活スケジュール

9:30	集合
10:00	開始，自己紹介
11:30	昼食
14:00	防災ワークショップ
15:00	フリータイム
16:00	マッチング
16:30	終了

(2)　2 度目の防災 de 婚活

BOUSAI de 婚活の企画失敗に懲りずに，「防災 Dr. HADA と行く八ヶ岳ミステリーツアーDE 婚活」（2015 年 3 月 14 日（土）開催）というテーマを企画し，あらためて募集を行った．

前回の反省を受けて，どこで何をやるのかが具体的であること，スケジュールの内容の個々の魅力を高める工夫がなされた．その結果，参加人数 7 名（男性 3，女性 4）となり，ギリギリ最小催行人数を上回り，開催することとなった．

表２　防災 Dr. HADA と行く八ヶ岳ミステリーツアーDE 婚活

9:30	集合
10:00	開始，自己紹介
11:30	バスでミステリーツアー
13:30	昼食
15:00	防災トーク，クロスロード
16:30	マッチング
17:00	終了

バスツアーでは，八ヶ岳山麓にある災害の爪痕を巡る内容で，ガイドには郷土の歴史や文化に詳しい，北杜市郷土資料館学芸員の植松正江氏の協力を得た．フィールドに出て，グループ散策することにより，楽しみながら地形の形成要因や災害の爪痕を学んでもらうことを企図としている．釜無川と尾白川合流地点，ミニグランドキャニオン，三分一湧水等でバスを降り，現地の散策を行った．

防災トークでは，創作料理素透撫のシェフ清水秀樹氏と筆頭著者がかけあいトークを実施した．2014 年 2 月の豪雪の体験を，シェフの視点から地域のつながりの大切さと料理の展開力を説いたブックレットを配布した．どうすればピンチをチャンスに変えられるか，災害を素材としつつ話しは普段の過ごし方に及んだ．

クロスロードでは，京都大学教授の矢守克也氏から事前に受けたアドバイスを踏まえて，質問の 1 つは新婚さんを想定したデザイナーズ家具の家具固定に関する質問とした．予想外に意見がわかれ，これだけ笑いが絶えないクロスロードは初めてであった．

(3) 防災 de 婚活の実施状況

写真１　バスでミステリーツアー（災害の痕跡）

写真２　防災トーク

なお，参加人数が少なかったこともあり，カップリングは実施しなかった．

(4) 参加者アンケート

アンケートの結果を以下にまとめる．

1) 性別　男性３、女性４
2) 年齢　～39 歳　2 名、～44 歳　2 名、～49 歳　3 名
3) 住所　北杜市内 2 名、山梨県内 4 名、神奈川県 1 名
4) 婚活 de 八ヶ岳推進委員会のイベント
初めて 3 名、2 回目 2 名、～5 回目 1 名、～10 回目 1 名
5) 他の主催者の婚活への参加　ある 3 名、ない 4 名
6) 「何」に惹かれて申込みましたか？（自由回答）

- 防災ツアー
- 災害のあった場所の見学など
- 地域災害の歴史や防災に関する知識というタイトルにひかれて
- 震災後、これからの防災に協力できたらと思いました
- 防災の勉強が出来ると思ったのと，おいしいお食事が頂けるということにひかれて参加しました
- 防災というテーマ
- 防災意識が高まるかと

7) 防災関連の内容

- すごく面白かった！現地で見たり話が聞けて良かった．
- むずかしい話になるのかと思いましたが，楽しく勉強できてよかった．
- とても有意義でした．
- とてもためになった．
- とても勉強になった．
- 楽しめました．先生方のお話が良かった．
- バスツアーが楽しかった．

8) 今日ちょっと嬉しかったこと

- 少人数だったので普通に楽しくしゃべれたのが良かった．
- 色々な職業の方とお話できてうれしかった．
- 知らなかった色々な場所を見れた．
- 人数が少なくてアットホームで良かった．
- 少人数でアットホームな感じが良かった．
- とても楽しい雰囲気の中で婚活できた．。
- （当初行けないと思っていた）朝の時間に間に合った．

9) 今日ちょっと心残りだったこと

- 興味あるテーマなので、もっと秦さんや清水シェフの話を聞きたい！と思いました．
- もう少し多い人数でやってみたかった．
- 中途で抜けなければならなかったこと．
- 特になし．４名

10）一日を通しての感想

- 「防災×婚活」のプログラム、なかなか楽しめました。ありがとうございました。
- おいしくて楽しくていい時間でした
- とっても楽しかったです．ありがとうございました．
- 人数が少なくてバスが広く使えて良かった．
- 参加して良かった．
- 防災に関する知識や興味が深まりました．
- 楽しかった．

３．おわりに

本稿では，筆者らが実施した防災をテーマとした婚活について，実施概要を報告した．社会的に防災に対する関心が非常に高まっている状況ではあるものの，防災 de 婚活の参加者数は振るわず，予想に反して厳しい結果となった．

一方で，実際に参加した人達の満足度は思いのほか高く，テーマとして防災 de 婚活が成立しうることが確認できた．また，今回の参加者全員が，「防災」に何かしら興味や関心がある人達であった．防災という名前を冠して募集したイベントなので，当然の結果ではあるが，防災無関心層を取り込むためには，「防災」という文言を敢えて使わないなど，今回実施したものとは異なるアプローチが必要であると思われる．

以上のように，課題は少なくないが，成人未婚者への防災啓発のアプローチの 1 つとして，防災 de 婚活に関する検討を今後も重ねる所存である．

謝辞

素透撫シェフ清水秀樹氏，北杜市郷土資料館学芸員植松正江氏のご協力により，充実したイベントを実施することができました．京都大学防災研究所教授の矢守克也先生からは，婚活イベントに相応しいクロスロードの質問をご教示いただきました．ここに記して深く感謝の意を表します．

参考文献

1) 梅本通孝：なぜ「防災ブーム」はやってこないのか？，特集記事，自然災害科学，29-3，pp.319-354，2010
2) 片田敏孝：人が死なない防災，集英社新書，2012
3) 山田昌弘，白河桃子：「婚活」時代，ディスカヴァー携書，2008
4) 毎日新聞：婚活:災害講習で婚活は不謹慎？　識者の話，大阪朝刊，2014.6.27
5) 八ヶ岳婚活推進委員会：BOUSAI de 婚活～身近な人を守りたい・身近な人を助けたい～ (http://konkatsu8.com/cn21/pg312.html)
6) 八ヶ岳婚活推進委員会：防災 Dr. HADA と行く八ヶ岳ミステリーツアーDE 婚活　報告 (http://konkatsu8.at.webry.info/201503/article_5.html)
7) 清水秀樹：ピンチの食べ方　「その時」をどう料理するか？，山梨大学，2015